



発行所 アシュラムセンター
523-0894 近江八幡市中村町 567-2
Tel 0748-33-4030
Fax 0748-33-8856

アシュラムセンターホームページ
www.ashramcenter.jp

編集 アシュラム誌編集委員会

振替 01050-6-53772
アシュラムセンター

印刷 明文舎印刷商事(株)

解題

アシュラムとはインドの言葉で「退修」という意味で、スタンレー・ジョーンズ博士によって日本に紹介されたものであります。祈りの生活をもって事前に自らを整え、今日に於ける主のご委託にこたえんというのがその願いです。

「み言葉に聞き祈る生活」。それは、まさに、主の救いを待ち望む者の姿であり、その日々の霊的生活を全うした者は、喜びと感謝のもとにその生涯を閉じていくことができることを証しする。

「シメオン黙想の家」とは、そんなシメオンのような確信に満ちた生涯を送った。その生涯はまた、

彼女が若くして夫を失いながら、「神殿を離れず、断食して祈ったりして、夜も昼も神に仕えて」(37)いたとルカは紹介する。彼女もまた、幼子イエスを見、喜びにあふれ、「エルサレムの救いを待ち望んでいる人々」(38)に、イエスのことを伝えるものとなった。その生涯はまた、

今、この時、彼らが待ち望んでいた救いが訪れた。歳を重ね、日々を過ごし、なんの喜びも楽しみも見出し得ない、そんな虚しく

神に捧げるため神殿に連れて来られた幼子イエスを、最初に抱き上げたのは、聖霊によって、「メシアに会うまでは決して死なない」(ルカ2:26)と約束されていたシメオンだった。彼は、幼子イエスをその腕に抱き、「今こそあなたを、お言葉どおり、この僕を安らかに去らせてくださいます」(29)と主をたたえ、賛美した。

実は、アシュラムセンターの修道施設「シメオン黙想の家」の名は、この「正しい人で信仰があつく、イエスエルの慰められるのを待ち望」(25)んでいたシメオンの名前にちなんでつけられた。

彼女は若くして夫を失いながら、「神殿を離れず、断食して祈ったりして、夜も昼も神に仕えて」(37)いたとルカは紹介する。彼女もまた、幼子イエスを見、喜びにあふれ、「エルサレムの救いを待ち望んでいる人々」(38)に、イエスのことを伝えるものとなった。その生涯はまた、

しかし、私たちは、もうひとつの目を持つとう。決して希望を失わず、万民の救いを信じる、霊の眼を。そうだ、その眼には、確かに映っているものがある。「わたしはこの目であるあなたの救いを見たからです」(30)と。

瞑想

わたしはこの目でああなたの救いを見たからです。これは万民の前に備えられた救いです。

主幹牧師 榎本 恵

ルカ2:30-31(協)

たアシュラムの先達たちに思いを馳せ、做う所になるようにと願ひ名づけられた。また、もう一つの修道施設「アンナ祈りの家」は、その章の中に続いて書かれた一人の女預言者「アシエル族のファヌエルの娘」(36)アンナの名前から名づけられた。

私たちは、この二人は、共に高齢者であった。人生の最晩年に、もう喜びや楽しみとは遠い存在と思われていた二人に、最高の喜びと楽しみが訪れたのだ。

それは決して、死後の世

諦めそうになる時に、変わらぬ現実の前に力失いそうになる時に、しかしその時に、見出すものがある。その手に抱きあげることのできる幼子がいるのだ。残念ながら、私たちの目の前の現実には、とても厳しい。戦争はやまず、主のお生まれになった地は、クリスマスを前に、平和とは程遠い憎しみと怒り、そして悲しみに満ちている。誰もそれを止めることができず、益々混迷は深まり、次は私たちもその渦に否応なく巻き込まれてしまうかも知れないと、不安や恐れが心の内を支配する。そしていつの間にか、この年も終わろうとしている。

第18回国際正義・平和アシュラム 開催感謝

榎本 恵

イエスは主なり
第18回国際正義・平和アシュラムを感謝いたします。

台湾から参加されたタロコ族の皆様も佐渡島の旅を楽しみ、無事お帰りなりました。

また、日比野則彦さんからはさっそく「天上の音楽」コンサートの全映像を送っていただきました。

アシュラムセンターのYouTube「いろいろチャンネル」でも視聴いただけるように準備しております。

コロナという思いがけない出来事により、この世界的なアシュラムが、開催できるだろうかと心配しておりますが、吉澤牧師をはじめ新潟アシュラムの皆様のお力添えと、ま

た全国のアシュラムの友の祈りによって、台湾愛修會とアシュラムセンターの共催のアシュラムを主の祝福の内に終えることが出来ましたことを感謝いたします。どうぞ引き続き世界の平和を祈り、励まし、助け合ってくださいように。

2年後の2025年秋には「第20回国際正義・平和アシュラム」をアシュラムセンター開設50周年記念とともに、近江八幡の地で行ないます。どうか、皆様方の祈りのうちに覚えてください。

なお、来年2月には「第19回国際正義・平和アシュラム」を、台湾で開催することになってい



台湾から17名、日本40名（新潟19名、ブラジル1名）合わせて約60名の方々による、平和への讃美と祈りがささげられました！



開会礼拝、恵師と、王美満師。今回も、台湾の皆様への引率、通訳のお働きに感謝です。



吉澤昭男師（実行委員長）。3年間準備ご奉仕下さった。新潟の方々共に。



山田耕太氏（前敬和学園大学学長。新潟にキリスト教主義の敬和学園が設立された訳、その役割など、歴史を紐解きご講演下さった。主のお計らいが今も続く…）



タロコ族の青年達による躍動感あふれる讃美。アシュラム参加者はもちろん、敬和学園の寮生の皆様の心の奥にも、熱く響いたようです。多謝！



【写真左】掌難達道（ナナンダダウ）師文蘭教会聖歌隊を率いて力強く平和を願い訴えられた。ユーモアたっぷりの日本語も！
【写真右】入江玲子姉（高俊明師の姪）アシュラムご参加、通訳のご奉仕感謝。



小林佳子姉の祈りに心動かされ…

水戸教会アシユラムの集いに感謝

叶多 博美

父の認知症状が急に悪化し、御言葉の力とファミリーの祈りを願っての参加でした。

恵先生からの「この地上には、神の御声が至る所にある」「御言葉が立ち上がり追ってくる」の言葉が印象深く、静寂の時へ。

マタイ16章を読み進めながらも心は静まらず、目を上げました。

そこは教会学校幼稚科の部屋で、主の祈りと十戒が一節ずつ掲げられています。

「われらに罪をおかすものをわれらがゆるすごとく、われらの罪をもゆるしたまえ」「あなたの父と母をうやまえ」。父は昼夜逆転、理解できな

い行動の繰り返し、スイッチが入ると容易には止まない怒り。そんな父を、ゆるしてうやまえと示され、涙があふれました。

静寂の時をどこで過ごすか迷ったのも、主がこの御言葉に出会わせて下さるためのご計画だったのでしょうか。

再びマタイ16章に向き合うと、24節が心に留まり、自分を捨てるとは何なのか？負うべき私の十字架は何か？思い巡らせることができました。

新たなファミリーとの祈り合いも、涙・涙でした。今回のアシユラムに参加できたことに心から感謝します。(水戸バプテスト教会)

鈴木 早苗

今回のアシユラムの集いに出席させていただき、み言葉にじっくり耳を傾ける時を持つ

ことができました。また、新しい家族の皆様と出会い、それぞれが様々な苦難を抱えながら、主と共に歩もうと日々を過ごされていることを知りました。

誰もが人生の荒野を生きる時、イエス様が仰ったように、自分の十字架を背負ってイエス様に従うことが幸せへの道であることを改めて思いました。

ペトロのように「あなたはメシア、生ける神の子です。」とどんな時にも答えられる自分でありたいと思えます。

「人は、たとえ全世界を手に入れても、自分の命を失ったなら、何の得があるのか。」と、教えてくださったイエス様。ひとりひ

とりがそのことをいつも思い、主と共に心ひとつに生きる人生が歩めますように祈ります。

そして、み言葉に活かされ、み心に従って幸いな人生を誰もが生きられますように。大変なこの時代ですが、主の平安が心にあり、世界に平和がありますように心からお祈りいたします。

アシユラムの集いを通して、このように立ち返る機会を与えてくださった主に、心から感謝いたします。(東海バプテスト教会)



アシユラムの前に。小林茂男兄(佳子姉のご主人様)を訪ねて鯉淵兄と共に。



〈誕生日カード感謝のお便りから〉も増えました。ただ、主と共にある楽しみと喜びは変わりません。 中野秋子(盛岡)

「第47回山陰アシラム」に参加して

稲田 陽子

「第47回山陰アシラム」は、天候にも恵まれ、大自然に囲まれた蒜山バイブル・キャンプで10月2日〜3日の二日間開催されました。

その集会に先だって、準備祈祷会が開かれてきました。祈祷会には鳥根・鳥取の両県から7名の委員が集まりました。

私の好きな新聖歌の一つ347番には「家は雲なき大空の下 水は渴かぬ命の真清水 糧は豊かに天降るマナ ああべウラわが地よ」とあります。

神様は晴天の中、空気の澄んだ清水の湧く緑の高原に招いて下さいました。

今回のご奉仕は、委員長の高藤誠一師(日基安来教会)、宮本祐子師(日基久世教会)、稲田敏朗師(江尾キリスト教会)が担当して下さいました。

参加者は10名で、AとBの二組のファミリーが出来ました。

静かに御言葉を読みます時、神様の方から語りかけてくださり、今まで気付かなかった更に深い恵みと御旨を覚えて頂きました。

また、静聴の時間に開かれた御言葉は「エペソ人への手紙」1章と2章でした。

静かに御言葉を静聴する時、神様の方から語りかけてくださり、今まで気付かなかった更に深い恵みと御旨を覚えて頂きました。

特に私に示された箇所は、1章8節の聖句で「心の目がはっきり見えるようになって」でした。神様は聖霊の宮として私を選んで下さっているにもかかわらず、「心の目ははっきりと開かれていくだろうか?」と問われました。

「もつとこの場所に留まっていたい」と願いながらも、閉会の時となりました。

遠藤誠一師の祝祷に続き、集う全員が手を取り合って、「また会う日まで また会う日まで」と讚美しながら、

互いに「第48回山陰アシラム」における再会を祈り、初秋の高原

を後にしました。「ハレルヤ主よ感謝します。」(日本福音教会連合江尾教会)

イエス様のそばに

大西 瑛

僕は今回、ユーストリートアシラムに参加しました。

何よりもまだ出会ったことのない同世代の若者達とたくさん交わりをして、学んで、祈り合えたことがとても感謝です。

このアシラムでは、とことんイエス様の前に静まる時間がたくさんありました。僕は、そういうのは苦手だったのでですが、アシラムセンターの環境もよく、静まることができました。

また、ラビリンスを歩いている時も自分の性質とか、自分の視野

とかいろんなことを巡らす良い時間でした。どちらにも共通して言えることは、イエス様と共に歩いている感覚、イエス様が、横で一緒に聖書を読んでいる感覚になったことです。これはすごい恵みだなと感じました。

そして、僕が一番聖書から学んだのは、自分が過去の実績に溺れて自慢をしていること、大切なものは、過去でも未来でもなく今であることです。

そして、そこで祈り合った仲間とその時だけではなく、毎日の祈りでも感謝です。

これからも毎日イエ



〈誕生日カード感謝のお便りから〉皆様の上にもみことばが実際に生きて働いていることが感じられ、嬉しい限りです。私も高齢になりましたが、みことばと共に神に感謝して生きようと思えます。 豊永康子(高崎)



〔阪神アッシュラム感謝のお便りより〕尊い聖名を賛美申し上げます 期待と畏れをもってアッシュラムに参加させていただきました。不安もありました。ノートに記された数々のことば、一つ一つかみしめ、反芻しています。

ス様の前に静まって新しいイエス様、新しい自分を知っていきましょう。思っています。

(四国中央
ゴスペルチャーチ)



プログラム最後の食事は、恵師得意のバーベキュー！これからそれぞれの場所に帰り新たな出発です！そしてまた、お会いしましょう。

早天祈祷会での祈り ~レビ記 24章~

早天祈祷会を感謝いたします。

一番しぼりの純粋なオリーブ油を常夜灯とする。これが早天祈祷会への朝一番の油だと思います。そして、これから日常生活になると、純粋な油が二番、三番しぼりのような混じり気のある濁った油になっていくことを思います。早天がいつも一番しぼりの油を注ぐ時間でありますように。 新千重子



◀版画によるゴルゴダの家、丘(シメオン黙想の家、左手前)。宮本一兄(庭師)作。



◀和子母、齋藤師のジョーク？に大笑いの千重子姉。(和子母 百天1ヶ月前)



第45回 阪神アッシュラム&修道場アッシュラム。合同は初の試み。



樋口隆利兄、包丁研ぎご奉仕！皆、大助かり！



◀冊子「アンナとシメオン」第3号完成！折り込めて。皆様のお支え感謝です。

いえじま 雑記6 2度目のクリスマス

アデノウイルスに見舞われました。最初に長女が幼稚園でもらってきて、それから次女へ。八ヶ月の末娘に症状が出始めた頃には百々子も鼻をすするようになり、感染を免れたかに思えた私も、最後にうつってしまいました。

もちろんこのようにきっかりと、順番通り、うつっていけば問題ないのですが、大人が二人ともダウンしてしまうと、家の中はカオスに陥ります。

頭痛に鼻水、咳、目やに、倦怠感、喉の痛み。次々に襲ってくる症状はまるで終末を思わせるようですが、あちらでは腹を空かせ、冷蔵庫を開けては閉める長女と、こちらでは眠気としんどさで抱っこをせがむ次女と、そしてむこうの方では隙あらは階段をずんずん登ってやろうと、階段の前で息巻く三女がいては、どうしようもありません。終末であっても、日常は続くのです。

こういうときに無理が効かないのはいつも私の方で、百々子には大変迷惑をかけました。そんな日々も時間といつもより高級なアイスクリームがあればなんとか乗り切れるもので、太陽の眩しいこの島で、私たちは二回目のクリスマスに向けて備えています。みなさまも、それぞれの場において、よいクリスマスをお迎えください。

榎本 空 (ノースカロライナ大学院生、沖縄伊江島在住)

あとがき

主の御降誕を待ち望む季節が、またやってきました。しかし今年ほど、こんな重い気持ちで迎えるクリスマスはなかったでしょう。主のお生まれになった、まさにその地で、悲痛な声を上げる人たちが。それはパレスチナ、イスラエルとも同じです。

人質となった家族の帰りを待つ人、ガザの地の爆撃と地上戦で愛する者を失った人。どちらが正しいのかではなく、どちらも慟哭の哀しみに満ちているのです。

そして私たちは、相変わらず、その現実を前にすすすべもなく立ちすすんでいます。

いやしかし、そんな中で、この出口の見えない憎しみの連鎖が断ち切れるように、毎朝の早天祈祷会です。祈る牧師がいまなく、私たちにはこの祈るといふ術があるので

クリスマスを前にし、私たちは祈りましょう。平和の主に向かって。「戦いよ終われ、太陽も魅れ。」 (恵)

私自身が直接神に出会うしかないのです。ヨブの叫びが響きます。本当に大切な、貴重な時間をありがとうございます。ハレルヤ！

(詩編150)

吉田久 (堺大浜キリスト教会) (初アッシュラム)


中止、又はオンラインに変更もあり。
ホームページ、電話等でご確認下さい。
直前の変更の場合あり！

12月の聖書教室など

【主な問い合わせ先】
0748-33-4030
アシュラムセンター

5(火)	Zoom聖書教室 (AM10:30、PM7:30)
9(土)	加古川祈りの家 (小林清子姉宅 PM1:00)
9(土)	聖書と学び会 (Zoom PM8:00)
11(月)	福岡聖書教室 (博多クリオコートホテル PM1:30)
17(日)	ちいろば牧師記念チャペルタ礼拝 (PM5:00)
18(月)	使徒書に学ぶ会 (ZOOM AM10:30、PM7:30)
19(火)	大阪聖書教室 (大阪クリスチャンセンター AM10:30)
25(月)	静岡聖書教室 (旧・英和女学院宣教師館 AM10:00、PM1:30)
26(火)	東京聖書教室 (御茶ノ水クリスチャンセンター 4F AM10:30)
27(水)	美しい足の会 (Zoom AM10:30、PM7:30)
1/5(金)	阪神ミアシュラム (神戸聖愛教会 PM1:00)
1/8(月)	福岡聖書教室 (博多クリオコートホテル PM1:30)
1/9(火)	Zoom聖書教室 (AM10:30、PM7:30)

12月のアシュラムなど

4(月) 8(金)	リトリートアシュラム (アンナ祈りの家、シメオン黙想の家) 0748-33-4030 アシュラムセンター 奉仕者 榎本 恵師、アベルモン宣教師
7(水)	ちいろばクリスマス讃美会 (みんなのカフェちいろばシェフによる 愛餐、クワイアーチャイム演奏会) アンナ祈りの家 
8(金)	合同平和祈禱会&阪神ミアシュラム (日基神戸イエス団教会) 0748-33-4030 アシュラムセンター 奉仕者 コモリコウゾウ師 (日基兵庫教区・アンテオケ宣教会 主事)


1月のアシュラム予定

1月25(木)~27(土)	第49回 年頭アシュラム
---------------	--------------

2月以降のアシュラム予定

2月12(月)~14(水)	ルーヂラモス教会アシュラム (ブラジル)
2月19(月)~21(水)	第41回 台湾愛修會

49th 年頭アシュラム 2024年 1/25(木)~27(土)

主 題 5つの勧告
主題聖句 何事も愛をもって行いなさい。1コリント16:14
会 場 琵琶湖コンファレンスセンター (琵琶湖畔のホテルです)
〒521-1136 滋賀県彦根市新海浜2丁目1-1
☎ (0749) 43-3000
交 通 JR能登川駅より送迎バスあり(約40分)
奉 仕 者 榎本 恵牧師 (アシュラムセンター主幹牧師)
島 隆三牧師 (東京聖書学校神学教授) 
会 費 26,000円(ツイン) 30,000円(シングル) 数に限りあり
申 込 1月16日(火)まで
*Zoom参加も可。ご連絡ください。

みことば



シメオン庭の椿

日本基督教団仙台宮城野教会牧師
アシュラムセンター協力牧師
齋藤 篤

わが名を畏れ敬うあなたたちには義の太陽が昇る。
マラキ書3章20節

今から10年前、私がドイツ・ケルン市に住んでいた頃の話です。

ケルンの街は、ちょうど北緯50度の場所にあります。北緯50度とは、いわゆる樺太島(サハリン島)を南北に分ける位置がそうですから、相当北方であると言えます。

ですから、太陽が昇るのも沈むのも、日本のそれとは全然違います。特に、冬のそれは日本で暮らし慣れている者にとって、実に「太陽が顔を見せない季節」であることを痛感させられます。朝の9時を回った頃に空がぼんやりと明るくはなりますが、厚い雲に覆われて太陽が顔を出すことがほとんどありません。そして午後4時には、また空が真っ暗になってしまうのです。

太陽の光を浴びないということがこんなにも辛いものなのだと、私はつくづく感じました。そんな時に、スペイン・バルセロナへ仕事で行く機会がありました。スペインはドイツと違って、この時期でも燦々と照り輝く太陽が、私たちの身も心も包みます。私はいっぺんに憂鬱な気持ちから解放されたのでした。

今、私たちは主イエスのご降誕を待ち望む待降節(アドヴェント)の時を迎えています。もちろん、救い主が私たちのもとにやって来られることを、私たちは心から待ち望んでいるわけですが、それほどの感動をもって待望の思いを抱いているだろうか。そんなことを毎年この時期になると思わされたりするのも、偽らざる思いであつたりするのです。

そんな時、私は10年前に経験した「太陽の光を待ち焦がれる思い」というものを、思い起こすようにしています。暗闇に投げられる光こそ、私たちの心を解放へと導くものなのだと。まさに、やがて来られる救い主が「義の太陽」であると告げた預言者マラキの言葉にふさわしく、クリスマスの主イエスが、私たちのもとに今年もやって来られるのです！

命を限り、わがしは、まにのりて、
長そら 限りわたしの神んほの歌を
こんろ、洋編 一四、五

橋本和子



今年最後の聖書教室は詩編150。恵師就任16年目。阪神アシュラムの方も共にハレルヤ！主を賛美せよ。天上の先達方にも感謝をこめて、ハレルヤ！